

AWS・Azureなど

クラウド上のシステムの管理・統制、 設定ミス・脆弱性の放置に困っていませんか？



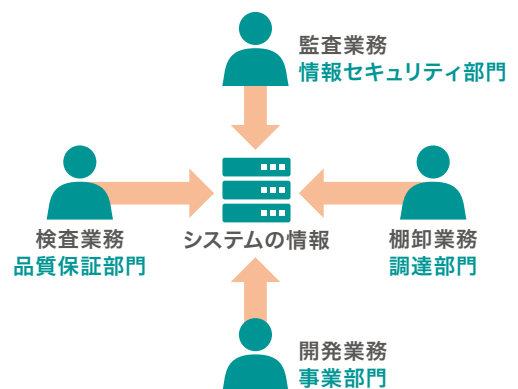
IaaS/PaaS環境運用支援

クラウドワークロードセキュリティサービス

デジタルトランスフォーメーションの加速に伴い、事業の拡大にIaaS/PaaSなどのクラウドサービスを利用する企業が増加しています。このような中、企業において、情報セキュリティ部門が把握できていないアカウント（シャドーアカウント）やリソース、脆弱性が放置されたままのシステムの増加が課題となっています。

シャドーアカウントを検知し、 クラウドの安全な活用を支援する、 それがクラウドワークロードセキュリティサービス

クラウドワークロードセキュリティサービスは、「**全数把握**」と「**常態監視**」により、セキュリティ対策状況など、社内で利用されているシステムに関する情報を一か所に集約・管理します。情報セキュリティ部門、事業部門、品質保証部門など、各部門が必要とする情報の効率的な確認・対応が可能です。



全数把握

会社が所有するクラウドアカウントを洗い出し、アカウントやリソースの情報を自動で収集します。プロキシのログなどから判別が困難なシャドーアカウントの利用者も特定可能。資産（システム）の把握によりアカウント乗っ取りなどのリスクを低減します。

常態監視

利用されているシステムがセキュアな状態かどうか、新たなリスクが潜んでいないかを監視、可視化します。リスク検知時にはあらかじめ設定した情報にもとづき関係者に通知。効率的かつ迅速な対策を支援します。

AWS: Amazon Web Services

機能詳細

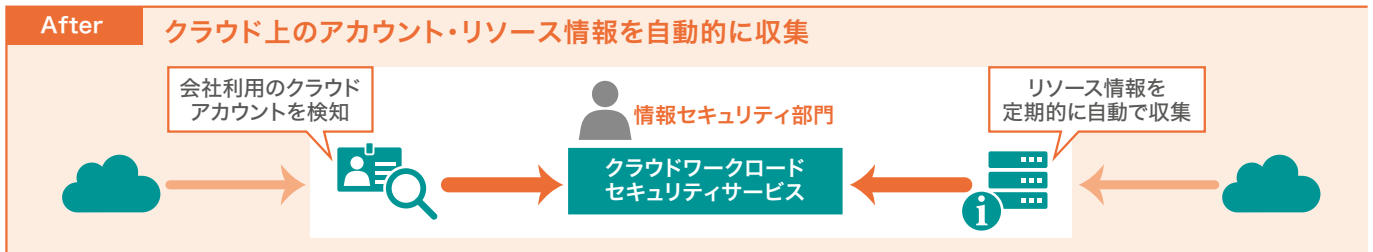
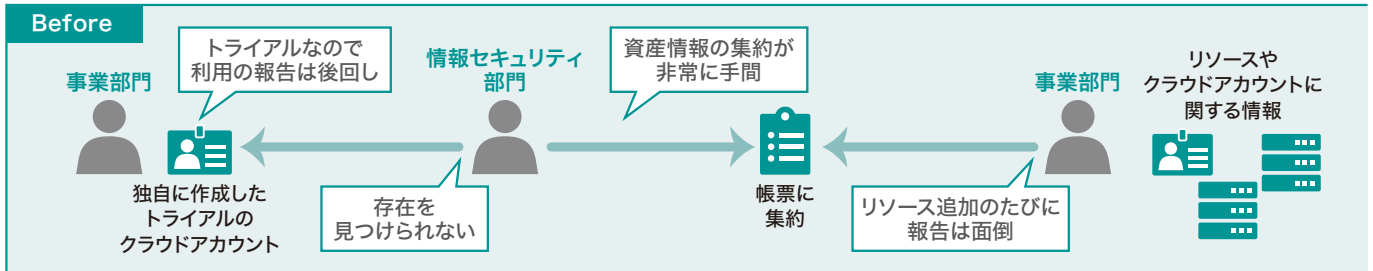
全数把握

■シャドーアカウントの検知

クラウドワークロードセキュリティサービスに登録されていないクラウドアカウントを自動的に検知、登録を促進。登録後は、クラウドアカウントに紐づくリソース情報を自動で収集。

■資産管理

クラウド上のリソースをシステム単位で管理。リソースに関する資産情報(リージョン、OS名など)を自動的に収集し、ユーザーが管理したいメタ情報を任意に定義し管理可能。



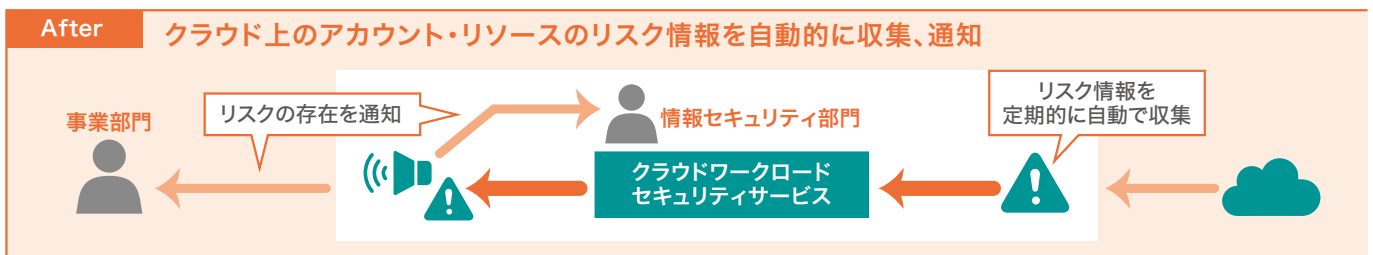
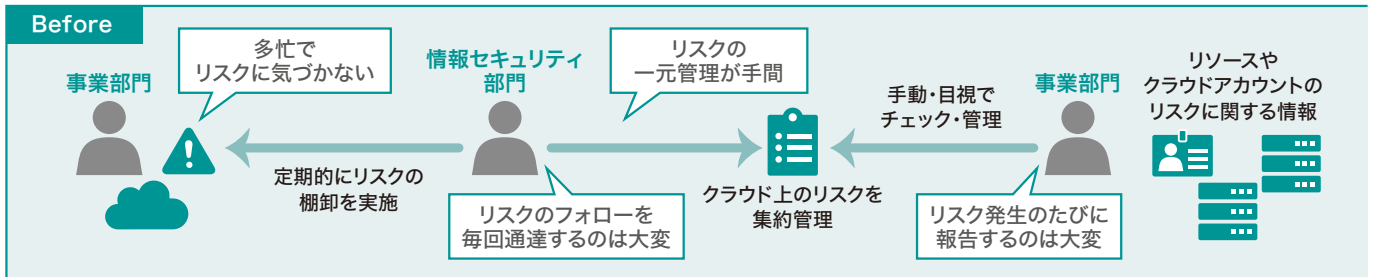
常態監視

■リスクの一元管理

CIS Amazon Web Services Foundations Benchmark、CIS Microsoft Azure Foundations Benchmarkといった業界標準のリスク検知に対応。自動でチェックする項目をユーザーが任意で指定可能なため、不要な検知項目を排除し、ユーザーの負担を軽減。

■アラート管理

Microsoft Teamsと連携することで、リスク検知時にアラートを受け取ることが可能。アラートの種類や通知タイミングなど柔軟に設定できるため、必要なアラートを必要な時に受け取り、万が一の際の対応遅延を防止。



※本カタログ中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記しておりません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本カタログ中の情報は、カタログ作成時点のものです。

株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報

www.hitachi-solutions.co.jp/cloud_orchestrator/lp

S19S-09-04 2022.10